

●Funnel Plot テンプレートの使い方

1. プロセス指標のデータセットは、以下の様式で作成し、CSV 形式で保存してください。

自治体名	対象者数	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検未受診者数	精検未把握者数	発見者数
A市	168803	50641	2615	2285	28	302	29
B市	11700	3510	246	164	82	0	3
C町	2453	736	33	25	3	5	1
D村	2413	724	30	21	8	1	0

* データセット作成時の注意点

- ・数値は必ず半角で入力してください。全角数字は使用しないでください。
- ・「不明」などの日本語の文字を入力しないでください。
- ・0 人の場合は「0」と入力してください。「-（ハイフン）」や「…（3 点リーダー）」は使用しない
- ・CSV 形式で保存してください。（データの形式を統一するため）

2. <https://fukui-ke-0507.shinyapps.io/funnelplot/> をクリックして、以下の手順でグラフ作成を進めてください。

①データをアップロードしてください。

②データのエンコーディング形式を選択してください。
(わからない場合は初期設定のままでも特に問題ありません)

③プロセス指標の「分子」を選択してください。
(たとえば発見率ではがん発見者数を選択してください)

④プロセス指標の「分母」を選択してください。
(たとえば発見率では受診者数を選択してください)

⑤都道府県名/市町村名/検診機関名などの変数名を選択してください。

⑥基準値など、比較対象の数値(ベンチマーク)を入力してください。
(初期設定では、各変数の合計値で集計したプロセス指標値が表示されます)

⑦グラフが自動表示されたのち、レイアウトを変更できます。

⑧グラフは画像データとしてダウンロードできます。

データテーブル

Funnel データ | 入力データ

Show 10 entries

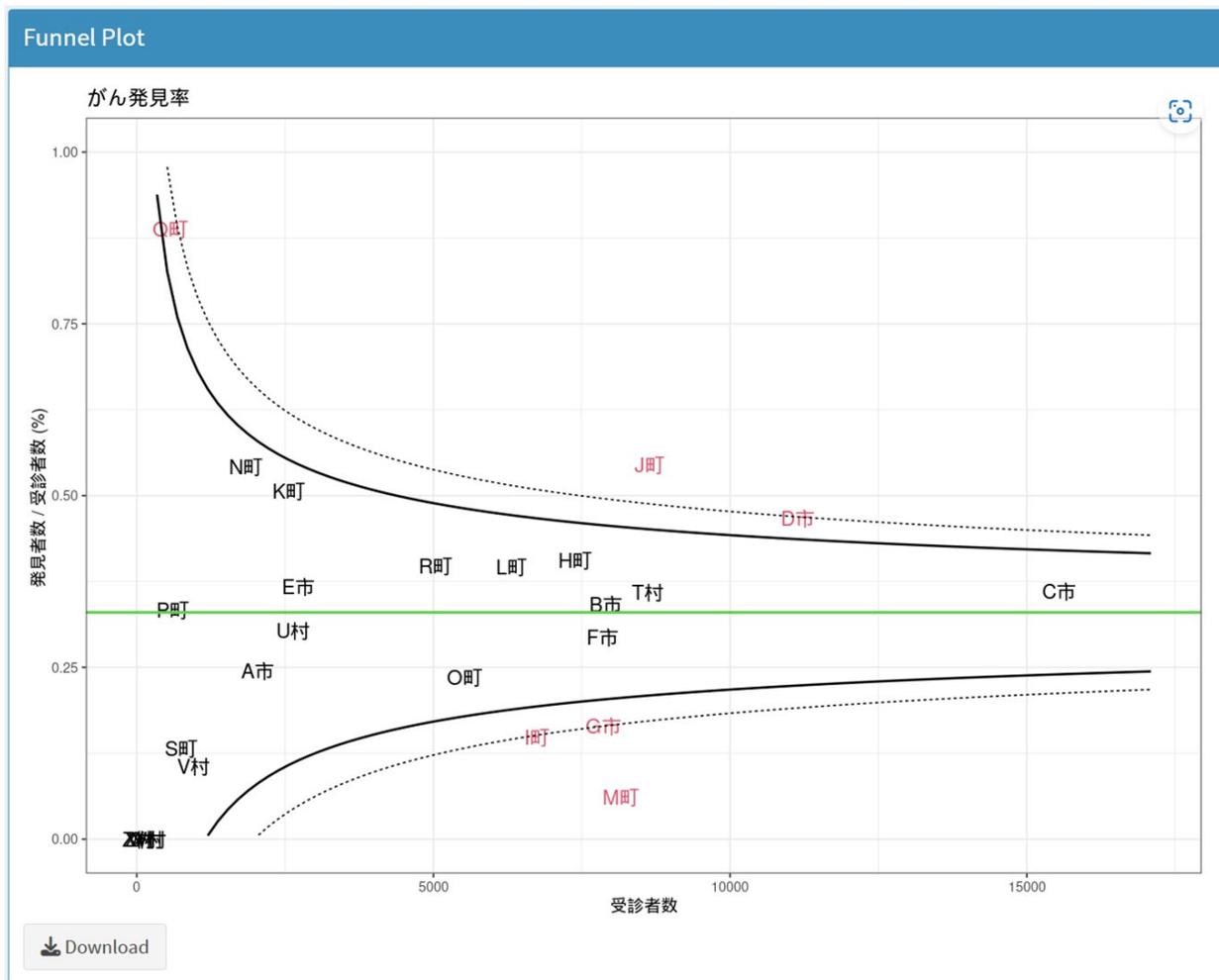
自治体名..検診機関名	受診者数	発見者数	発見者数 / 受診者数 (%)	Over_Under
A市	2038	5	0.25	
B市	7911	27	0.34	
C市	15538	56	0.36	

Showing 1 to 10 of 26 entries

Download

⑨自動表示されたデータテーブルをCSV形式でダウンロードできます。

●結果の見方



* グラフの構成

- ・緑のライン → ベンチマーク(基準値)を示します。自由に変更可能です。
- ・黒のライン → ベンチマークに対する 95%(点線は 99%)信頼区間を示します。サンプルサイズが大きくなるほど統計的なバラツキが小さくなり、信頼区間が狭まるため、漏斗(ファンネル)型の形状になります。
- ・赤のデータポイント→95%信頼区間を外れたデータは「統計学的有意に全体と乖離している」と判断されます。

データテーブル

自治体名..検診機関名	受診者数	発見者数	発見者数 / 受診者数 (%)	Over_Under
A市	2038	5	0.25	
B市	7911	27	0.34	
C市	15538	56	0.36	
D市	11145	52	0.47	over
E市	2717	10	0.37	
F市	7843	23	0.29	
G市	7870	13	0.17	under

全体の傾向から大きく外れたデータは、以下のように表示されます。この場合、原因を分析し、適切な改善策を検討してください。

- ・over(信頼区間上限を上回る)
- ・under(信頼区間下限を下回る)

➤ 結果の解釈は下記のマニュアル等を参照してください。

▶ プロセス指標について

プロセス指標の意味や活用方法については、以下のマニュアルをご参照ください。

□「自治体担当者のためのがん検診精度管理マニュアル」第0章(プロセス指標の意味と活用方法)

[マニュアルはこちら](#)

▶ プロセス指標の基準値について

厚生労働省が示す基準値については、以下の資料をご参照ください。

□「がん検診事業のあり方について(令和6年7月)」

[資料はこちら](#)

➤ 単年度のデータだけで判断しないようにしてください。

Funnel Plot を定期的に更新し、精度管理の状況がどのように変化しているかを継続的に追跡してください。

一時的な変動だけで判断せず、長期的な傾向を確認することが重要です。経時的な評価を行い、信頼区間の中に値が集まってくる場合は、これまでの精度管理の試みが順調に進んでいると判断することができます。